

## 地域医療の現場から



# 自治体病院としての役割と 改革に向けて

国保天草市立河浦病院 管理係長 脇元信治

### 病院の概要

- 設立年：昭和29年11月
- 許可病床数：99床
- 入院基本料：13対1
- 職員数：90人  
(医師4人、看護師42人)



## 地域医療を担う中核病院として

天草市河浦町は、天草下島の中央に位置し、青い海と緑の山に囲まれた自然豊かな地域です。歴史的には中世時代、南蛮文化が花開いた地としても知られ、「天草コレジヨ」や漁村に建つ教会として有名な「崎津天主堂」などがあります。その崎津地区から風光明媚な羊角湾が入り込んでおり、一番奥の一町田川河口近くの高台に河浦病院があります。

当院は、旧一町田村の国民健康保険施設として診療所が開設されたのを発端とし、昭和29年に国民健康保険河浦町立病院としてスタートしました。一時は結核病棟を併設するなど、変遷を経て、平成6年4月に現在の場所へ移転しました。また、平成18年3月に、天草諸島中心部の2市8町が合併して天草市が誕生し、天草市立の病院に生まれ変わり、河浦町のみならず天草町や周辺地域の地域医療を担う中核病院として活動を行っています。

現在、一般病棟39床、療養病棟60床。内科、外科、整形外科、リハビリテーション科を標榜しています。また、平成13年からは、救急告示病院として、救急患者の受け入れを行っている他、予防接種の実施など保健予防活動にも力を入れているところです。



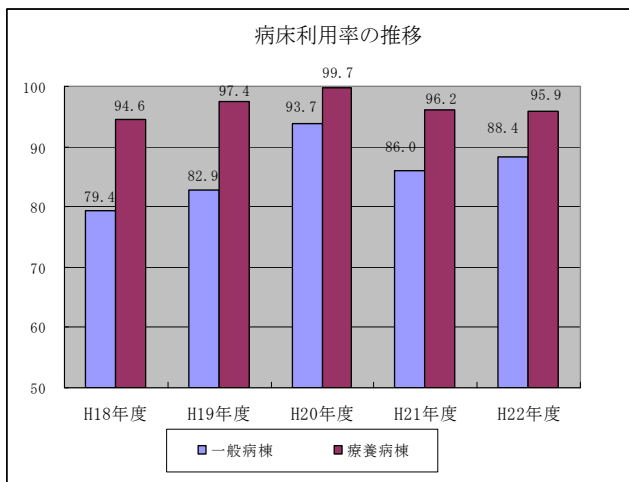
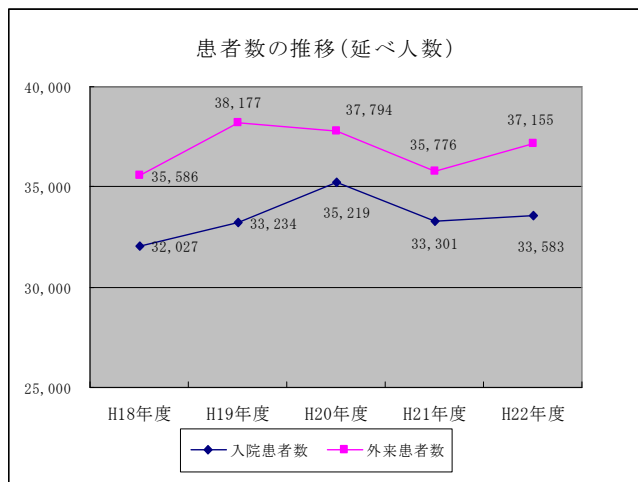
天草市河浦支所近くの「コレジヨ跡公園」は、桜の名所としても親しまれている

## 順調に進む改革プラン。課題は医師の確保

天草市には市立の医療機関として4病院と3診療所があります。全国的に自治体病院の経営環境が厳しさを増す中、天草市も例外ではありません。このため、市では平成24年度までの市立病院改革プランを策定し、改革に取り組んでいるところです。市民が必要とする医療を提供し、信頼される病院を目指すことを基本理念としながら、平成22年度から、公営企業としての経済性を発揮するため、4つの市立病院が公営企業法の全部適用となりました。また、経営の健全化を目指すため、「収益的収入に係る一般会計繰入金を交付税算入額まで縮減した上で、経常収支の均衡を達成すること」と具体的な目標を掲げています。まさに、過疎地の公立病院として存続するため、大きな転換期を迎えているところです。

本院の状況は、患者数の推移、病床利用率の推移を見てみると、常に高い水準で安定しています。経営面から見ても平成18年度から黒字決算となり、平成21年度は1億円を超す黒字決算を計上することができました。これは、住民の高齢化に伴う医療の必要性和併せて、院長を中心に医師、医療スタッフが一丸となって改革に取り組み、河浦町のみならず、周辺地域住民の信頼を得ることができたためと考えています。

そのような中、一番の課題は医師の確保です。現在、医師の充足率は厳しい状況であり、より安定した医療の提供を行うため、常勤医師の確保が急務となっています。



## 合い言葉は「進化論」。市立病院として存続するために

「種の起源」を著した博物学者ダーウィン。生物は、進化の中で、自然や環境の変化に対応し、自らを変えることができる者のみが存在し続けることを述べています。当院の院長はよくこの言葉を引用します。

地域医療を実施していく上で、経営が破綻し、病院がなくなってしまうとは意味がありません。地域住民のための病院として生き続けるために、過去の体制に固執することなく、必要なニーズや時代背景に沿った形で、よりよい体制に変化させることが重要です。そのためにも、経営面だけでなく職員の資質向上も必要不可欠であり、より上質な医療の提供を目指して、研鑽を積み重ねているところです。



全職員が参加する勉強会。この日は感染予防についての研修を行った。

## ガンバレ日本!

3月11日に東日本を襲った大震災。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。刻々と報道される映像を見るたびに、胸が締め付けられる思いです。

当院では人的支援は困難な状況ですが、市を通じて義援金の取り組みを行いました。また、被災地で医療活動をされている皆さんは、想像を絶する状況の中で本当に大変だと思います。このページを借りて、皆さんと共に医療に携わっている者として心から敬意を表するとともに、一日も早い復興をお祈りしたいと思います。

ガンバレ日本!

